

様式4 平成31年度新座市学校評価システム 課題報告書

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	令和2年1月31日

No.	質問項目	評価結果を踏まえた具体的な改善策	中間評価ポイント	評価 A/B/C/D
			本評価ポイント	評価 A/B/C/D
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	中間評価 ・子ども同士を互いに協力させながら取り寄せ、子どもが活躍できる場を設定する。子ども同士が認め合う雰囲気をつくる。教師も子どもが輝く姿を見逃さず、認め褒める。 ・道徳や特別活動において、心の教育を一層推進し、学級への所属意識を高める。 ・異年齢集団による活動を、「学年が進んだら下級生から頼られるようになりたい」と感じる活動とする。そのために、リーダーの力量に応じてサポートする。更に、日常の活動につなげている子どもの活動を賞賛する。	3.26	B
		本評価 ・発達段階に応じて、日々の目標を自ら立てられるように指導すると共に、児童の頑張りや努力を認め褒め、自己有用感を高めていく。具体的には、児童の望ましい姿が観られたときにかかざす価値付け、褒め、共有する。 ・保護者と個人面談等で、学校と家庭で児童の良さを共有化する。 ・児童が自ら掲げた目標を見えるところに掲示するとともに、振り返りを適宜行い、PDCAのサイクルで取りまわせる。前向きな評価を積み重ねていく。	3.15	B
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	中間評価 ・全体での話し合いを活発にするための工夫を、授業時間の中で設定する。具体的には、グループやペアの意見交換をする前に、個で考える時間を確保し、何のための話し合いなのかを意識させる。 ・1時間の授業における指導と評価の一体化を図る。具体的には、目標と評価規準の整合性を図る。児童の主体性を導き、明確に見とるために、魅力的な課題を設定すると共に、何を身に付ければ良いかが明確な授業づくりに取り組む。	3.14	B
		本評価 ・全教科でゴール(身に付けさせたい力)は何かを明確にして授業実践する。学年や教科を超えて、実践したことを、情報交換することで、教員の授業力を高めていく。 ・気付く、発見する、イメージ化する、共感的に理解する、表現する、深化するなどの内的な動機付けを重視した指導に高めていく。 ・学校としての授業の大まかな流れを共通理解したり、板書の書き方を統一したりする。それにより、更に主体的・協働的に課題解決を図る授業改善を図る。	3.24	B
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	中間評価 ・教科横断的な視点、子供や地域の現状にあわせて改善し、外部の資源を効果的に活用する。 ・児童が主体的におあしすの「お願いします」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません(ごめんなさい)」「こんにちは」の活動を継続的に行えるように教師自ら実践し、児童を指導していく。 ・全ての学級で授業規律が確保されるように、共通指導項目を再確認する。教師が自ら範を示し、児童が『自分から』主体的・協働的に生活したり、学習したりすることができるようにする。	3.29	B
		本評価 ・児童が主体的におあしすの「お願いします」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません(ごめんなさい)」「こんにちは」の活動を継続的に行えるように教師自ら実践し、学年を超えどの児童にも指導し、多くも目で見守るように指導していく。 ・授業開始・終了時刻を守ることを徹底するなど、教師が自ら範を示し、児童が『自分から』主体的・協働的に生活したり、学習したりすることができるように、前向きな評価を積み重ねていく。	3.18	B
総 評				
	中間評価	・教職員は、校長の掲げた今年度の重点目標である「児童の自己有用感を向上させる」を、自己評価シートにおいて、学年・学級経営・生徒指導の目標に具現化し、教育活動に取り組もうとしている。そのために、児童が他者や集団との関係の中で自分の存在を価値あるものとして受け止めているか随時評価している。また、「どのような状態になったときに目標が達成されたのか」を明確にして、教育実践を行っている。 ・児童の『自分から』を大切にするという今年度の重点目標の一つについては、児童が他者や集団との関係の中、自分に自信をもって生き生きと生活できるように支援に努めている。具体的には、教職員が自ら範を示すとともに、児童のよい姿を積極的に認め、紹介していくことで目標達成に近づきたい。		
	本評価	・児童が目標に向かって努力していくことができるように、教師の支援や声かけの視点を明確にしていく。今後も意図的に、児童が「失敗をおそれず挑戦し、最後までやり遂げてうれしかった」と思えるような場を、全教育活動で設定していく。 ・全教職員が校長の掲げた今年度の重点目標を実現させるために、学級・学年運営、及び校務分掌、校内研修等でどのように具体的な策を講じたら良いかを考えながら教育活動に取り組む。そのために、学年会及び校内研修、分掌会議の中で、自校の課題や解決のための手立てを共有したり、共通理解すべき内容について繰り返し確認していく。		